

編集後記

学会誌の組版でお世話になった都野印刷 多田 聡さんが亡くなって1年になりました。思うところもあって、二三の思い出を記してみました。

*学会誌のカラー化

十数年前、加藤誠理事（関西支部・日本ペイント）のご担当で学会のロゴマーク等のグラフィックデザインが一新されたのですが、当時の学会誌は費用のこともありカラー化が進んでいませんでした。事務局からのご相談もあり、大阪で製版会社を傘下にもつ大信印刷株式会社に学会誌のカラー化を打診しました。費用的には現状の予算で70～80%のページがカラー化できるとの結論を得ました。これにより、現在のようなほぼフルカラーの学会誌が誕生したわけです。2011年 Vol. 35, No. 2 からカラー印刷が標準仕様となりました。

ただ、原稿処理にスピード感と量産が問われていた印刷会社から半年ほどして「当社の組版現場の事情で、版下制作は切り離してほしい」という要望が出、印刷技術者としてデジタル技術にも精通され、組版でも柔軟に対応される（友人でもある）多田さんに相談し、辻埜がデザインやレイアウトについて協力する約束で組版を引き受けていただきました。お蔭でカラー化した学会誌は順調に発行が進みました。

*大会予稿集

全国大会の発表予稿集は毎回ページ数が多く、Vol. 36 Supplement（2012年 京大大会）では120件270ページに及ぶ学会誌となりました。もちろん予稿原稿はモノクロ印刷でしたが、原稿に配置された図表データに問題のある原稿が少なからずあって、印刷寸前の現場校正で、壊れた図

表を前に青くなりました。それでも多田さんは丹念にデータを分析し正しく修正いただいたことに、今も感謝しています。現在はPDFの電子予稿集となり、データ変換時のこの種のトラブルは少なくなりました。

*お人柄

学会も辻埜もいろいろご無理をお願いすることが増え、それでも必ず多田さんから前向きのお返事をいただきました。JSTAGE対応、バックナンバーのPDF化、AICやACAのProceedings作成等々です。もちろん相応の対価は必要ですが、確実な仕事を納期に間に合うよう連携してやっていただきました。ページ数が多くても切羽詰まっても「おやおや、そうですか。やらにゃいけませんね」と笑っていました。

彼の奥さんが新聞舗を経営されていて、晩年はその手伝いもされ、午前3時や4時に校正が送られてきて最初は驚きましたが、そうか、手伝っているんだとその気持ちのやさしさに、こちらの心まで温かくなったのを憶えています。

新型コロナに罹患し、後遺症もひどく、間質性肺炎に肺がんを発症し進行していったのですが、暗い声も出さず電話での打ち合わせも進めてくれました。東京の大学を出て大阪で印刷業の修行をし、家業である島根県の印刷工場を継いだ彼は、大都会に毒されることもなく、64歳で亡くなるまで温泉津の人でした。

「工夫したり綺麗にはできます。でもゼロからのデザインは勘弁してくださいよ。辻埜さんがやめる時は俺もやめるだろうな」、そう言っていた彼が先に逝って、白提灯に出雲の銘酒が香る新盆です。

（辻埜 孝之）

日本色彩学会 委員長 川澄未来子（理事） 副委員長：秋月有紀、池田尊司
色彩学編集委員会 委 員 五十嵐崇訓、大住雅之、何 元元、櫻井将人、佐々木三公子、佐藤弘美、
田中 緑、土居元紀、本間洋充、望月宏祐、森山 剛、渡邊千穂

発 行 2025年8月20日 ISSN 2436-7443
発行人 堀内隆彦 編集人 川澄未来子 編集事務局 辻埜孝之
発行所 一般社団法人日本色彩学会
東京都杉並区阿佐谷南1丁目16番9号 平野ビル3階 〒166-0004（電）03-5913-7079
支 部 関東支部 埼玉県さいたま市岩槻区上野4-6-23 〒339-0073
一般財団法人日本色彩研究所内 （Fax）048-794-3901
関西支部 大阪府阪南市箱作2874-257 〒599-0232 辻埜オフィス内（電）072-476-3028
東海支部 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57 〒470-0196
名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科 鷺津かの子気付
（電）0561-75-1839

郵便振替 00190-2-3949

*無断複写・転載を禁じます